

IBM Campaign
バージョン9 リリース1
2015 年 10 月

リリース・ノート

IBM

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、31 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Campaign バージョン 9、リリース 1、モディフィケーション 0 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Campaign
Version 9 Release 1
October 2015
Release Notes

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1998, 2015.

目次

第 1 章 IBM Campaign v9.1.0 のシステム要件と互換性	1
IBM EMM 製品におけるブラウザの動作	1
第 2 章 IBM Campaign v9.x の新機能と変更点	3
IBM Campaign v9.1.0 の新機能と変更点	3
IBM Campaign v9.0.0 の新機能と変更点	7
第 3 章 IBM Campaign の修復された問題	13
第 4 章 IBM Campaign の既知の問題	15
第 5 章 IBM Campaign 9.1.0 の既知の制限	19
第 6 章 IBM Campaign Reports Package	23
第 7 章 IBM Campaign の資料のロードマップ	27
IBM 技術サポートへのお問い合わせ	29
特記事項	31
商標	33

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項	33
--------------------------------------	----

第 1 章 IBM Campaign v9.1.0 のシステム要件と互換性

IBM®Campaign は、IBM EMM 製品スイートの一部です。Campaign バージョン 9.1.0 には Marketing Platform 9.1.0 が必要です。

最良の結果を得るには、画面解像度を 1440 x 900 以上に設定します。それより下の解像度では、一部の情報が正常に表示されない場合があります。低い解像度を使用する場合、ブラウザー・ウィンドウを最大化してより多くのコンテンツが表示されるようにしてください。

完全なシステム要件と互換性情報の保管場所

この製品と互換性がある IBM EMM 製品バージョンのリストおよびこの製品に対するサード・パーティー要件のリストについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」という文書を参照してください。この資料は、IBM Support Portal Web サイト (<http://support.ibm.com>) の「詳細なシステム要件 (Detailed System Requirements)」の下にあります。

注: Support Portal から IBM EMM 資料にアクセスするには、IBM アカウントでログインする必要があります。このアカウントは、IBM 顧客番号とリンクされている必要があります。アカウントを IBM 顧客番号に関連付ける方法については、Support Portal の「サポート・リソース」 > 「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

この資料には、IBM EMM にログインしているときに、「ヘルプ」 > 「製品資料」を選択することでもアクセスできます。

インストールおよびアップグレード

Campaign 9.1.0 (eMessage を含む) へのアップグレードは、バージョン 8.5.x、8.6.x、または 9.0 から実施することができます。Campaign または eMessage の以前のバージョンがある場合は、「IBM Campaign アップグレード・ガイド」に記載されたアップグレード・パスに従ってください。

IBM EMM インストール済み環境のデフォルトのトップレベル・ディレクトリーは、/IBM/EMM (UNIX の場合) または C:\IBM\EMM (Windows の場合) です。製品インストーラーは、製品ファイルを EMM ディレクトリーの下での個別のサブディレクトリーに配置します。詳しくは、「IBM Campaign インストール・ガイド」または「IBM Campaign アップグレード・ガイド」を参照してください。

各製品インストーラーの応答ファイルには、バージョン番号が含まれます。

IBM EMM 製品におけるブラウザーの動作

IBM EMM 製品には、ブラウザーに関するいくつかの制約事項と要件があります。

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのリストについては、バージョン 9.1.0 用の「*IBM Enterprise Marketing Management Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」を参照してください。

ポップアップ・ブロッカー

ブラウザやブラウザ・アドオン (ツールバーなど) のポップアップ・ブロッカーは、無効にする必要があります。ポップアップ・ブロッカーは、フローチャート・ウィンドウが開くことを抑止します。

ナビゲーションの方法

ブラウザのコントロールを使用してナビゲートしないでください。例えば、ブラウザの「戻る」ボタンと「進む」ボタンを使用しないでください。その代わりに、IBM EMM のユーザー・インターフェースに用意されたコントロールを使用してください。

Internet Explorer における複数のブラウザ・ウィンドウの使用

この制約事項は、Internet Explorer (IE) を IBM Campaign と、または Campaign フローチャートを使用するいずれかのモジュール (eMessage、Contact Optimization、Interact、Distributed Marketing) と使用する際に適用されます。

情報を横並びに表示するために複数回ログインする際は、IE を開き、IBM EMM にログインする必要があります。そして、IE メニュー・バーで「ファイル」 > 「新規セッション」を選択します。新規 IE ブラウザー・ウィンドウで、IBM EMM に同じユーザーまたは別のユーザーとしてログインします。

重要: これ以外の方法で複数のセッションを開かないでください。例えば、新しいタブを開いたり、「スタート」メニューまたはデスクトップ・アイコンから別のブラウザ・セッションを開いたり、IE の「ファイル」 > 「新規ウィンドウ」を使用したりしないでください。これらの方法を使用すると、アプリケーションに表示される情報が破損する恐れがあります。

詳しくは、「*IBM Campaign ユーザー・ガイド*」を参照してください。

第 2 章 IBM Campaign v9.x の新機能と変更点

IBM Campaign バージョン 9.x には、次の新機能と変更点が含まれます。

- 『IBM Campaign v9.1.0 の新機能と変更点』
- 7 ページの『IBM Campaign v9.0.0 の新機能と変更点』

IBM Campaign v9.1.0 の新機能と変更点

IBM Campaign バージョン 9.1.0 には、次の新機能と変更点が含まれます。

IBM EMM のインストールおよびアップグレードの改良点

インストールおよびアップグレードのプロセスに加えられた改良点には、以下のものが含まれます。

- すべての製品のインストール・ガイドが書き換えられて、インストール・ガイドとアップグレード・ガイドとに分けて再編成されたため、情報の検索と利用がもっと容易になりました。
- インストーラーに施された改良により、入力する必要がある情報の説明がわかりやすくなり、またインストールの各ステージで実行する手順がわかりやすくなりました。
- 各インストーラーには、製品のインストールおよびアップグレード・ガイド (PDF 形式または HTML 形式) を直接参照できるリンクが含まれるようになりました。

IBM eMessage のオファー統合

IBM Campaign と IBM eMessage の両方のライセンスがあるお客様は、IBM Campaign から IBM eMessage に及ぶ、オファーのライフサイクル全体の機能を利用できるようになりました。

この新機能により、IBM Campaign でオファーを作成し、IBM eMessage でそれらを資産に関連付け、メール配信を送信し、コンタクトを自動的に追跡する (バウンスは引かれます) ことが可能になります。結果はコンタクト履歴テーブルに書き込まれます。また、レスポnder (E メール内のリンクをクリックした顧客) は自動的に追跡され、レスポンス履歴テーブルに記録されます。

ユーザーは IBM Campaign のレポート機能を使用して、オファーのサイクル全体を追跡し、IBM eMessage 関連の E メール配信のためにキャンペーン・パフォーマンス・レポートで ROI データを参照することができるようになります。

この統合を構成するには、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

IBM SPSS® Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition の統合

IBM Campaign では、2013 年 12 月に使用可能予定の、IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition という Campaign ファミリーの新しい予測分析オファリングがサポートされます。

IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition は、統計モデリング機能を IBM Campaign 管理ソリューションに取り込む必要があるユーザーを対象にしています。

IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition は、SPSS Modeler および IBM SPSS Collaboration and Deployment Services のコンポーネントを含め、SPSS の高性能な予測分析スイートの一部である IBM Analytical Decision Manager をベースにしています。

IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition は、クラス最高の自動化、インテリジェントなモデリング、キャンペーン管理との統合を実現します。レスポンス、顧客評価、組み合わせ販売、またはマーケット・バスケットの関連モデル、ならびにクラスタリング・モデルを構築するための予測分析を実行します。IBM Campaign 管理ソリューションを必要とするため、これと完全に統合されます。

IBM Campaign を使用することにより、モデルを作成して継続的に管理し、これらのモデルを使用して顧客データベースのデータをスコア付けし、それらのスコアを利用してマーケティングの効率を高めることができます。特定のオファーに応答する可能性がより高い顧客または見込み顧客をターゲットにしたり、顧客の存続期間または将来性を予測したりすることで、マーケティング・キャンペーンの ROI を向上させることができます。

詳しくは、「*IBM Campaign および IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition 統合ガイド*」を参照してください。

新しい構成プロパティ: `overrideLogToHistory`

新しい構成プロパティ `overrideLogToHistory` が Campaign | partitions | partition[n] | server | flowchartConfig に追加されました。

このプロパティにより、実稼働実行時にコンタクト履歴が常に記録されるようにすることが可能になります。

管理者は、このプロパティを `logToHistoryDefault` と共に使用することにより、メール・リスト、コール・リスト、またはトラッキングのプロセスの構成時に「**コンタクト履歴テーブルに記録**」設定がユーザーによってオーバーライドされることを許可するかどうかを指定できます。

管理者が `logToHistoryDefault` を有効にし (これにより「**コンタクト履歴テーブルに記録**」がメール・リスト、コール・リスト、またはトラッキングのプロセスで設定される)、`overrideLogToHistory` を無効にすると、その時点以降に作成されたすべての新規フローチャートには「**コンタクト履歴テーブルに記録**」が設定されます。結果として、すべてのフローチャートの実稼働実行で、コンタクト履歴テーブルへの記録が常に行われます。

これにより、重要な実稼働実行時のデータ損失を防止することができます。例えば、ユーザーが「**コンタクト履歴テーブルに記録**」設定をクリアした後に再び有効化することを忘れるような状況を回避できます。

注: アップグレードの場合、特定のフローチャートでは、「**コンタクト履歴テーブルに記録**」の値はアップグレード前と同じ値として保持され、この値をユーザーが変更可能かどうかはユーザーに割り当てられた権限に応じて決まります。

構成プロパティについては、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」に説明されています。

新しい構成プロパティ: `disallowAdditionalValForOfferParam`

新しい構成プロパティ `disallowAdditionalValForOfferParam` が Campaign | partitions | partition[n] | server | flowchartConfig に追加されました。

このプロパティを使用すると、ユーザーがコンタクト・プロセスを構成する際に、ドロップダウン・リストに設定された値以外の値を選択できないようにすることができます。このプロパティは、コンタクト・プロセス (メール・リスト、コール・リスト) におけるすべてのドロップダウン・リストの動作に影響を及ぼします。

例えば、メール・リスト・プロセスにクレジット・カード・オファーが含まれており、期間のリストが提供されるようにこのオファーが定義されている場合は以下のようになります。

- `disallowAdditionalValForOfferParam` が `true` の場合、ユーザーはドロップダウン・リストからのみ値を選択できます。
- `disallowAdditionalValForOfferParam` が `false` の場合、ユーザーはリスト以外 (データベース表など) から値を選択できます。

構成プロパティについては、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」に説明されています。

新しい構成プロパティ: `numRowsReadToParseDelimitedFile`

新しい構成プロパティ `numRowsReadToParseDelimitedFile` が Campaign | partitions | partition[n] | server | internal に追加されました。

このプロパティは、区切り記号付きファイルのテーブル・マッピングで使用されます。また、IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition からスコア出力ファイルをインポートする際に、「SPSS スコア」プロセス・ボックスでも使用されます。区切り記号付きファイルをインポートまたはマッピングするために、Campaign はファイルを構文解析して列、データ型、およびフィールド (列) の幅を識別する必要があります。デフォルトで、Campaign は区切り記号付きファイルの 100 行 (最初と最後の各 50 行) を調べます。ほとんどの場合、フィールド幅を判別するためにはこれで十分であり、Campaign はこれらの行の中で見つかった最大値に基づいて幅を割り振ります。ただし、区切り記号付きファイルが非常に大きい場合、後のフィールドが推定の長さを超過することがあります。これは、エラーの原因となる可能性があります。そのため、非常に大きなファイルをインポートまたはマッピングする場合、より多くの行数を構文解析するためにこの値を大きくすることができます。詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。構成プロパティについては、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」に説明されています。

オファーの削除に関するユーザーへのアラート

ユーザーがオファー、またはオファーを含むフォルダーを削除しようとする、いずれかのオファーがアクティブ状態でないかどうか自動的に検査が実行されます。以下のケースでは、オファーまたはオファー・リストはアクティブと見なされません。

- オファーまたはオファー・リストのコンタクト履歴にデータが記録されている。
- 「オファーの追加/削除」リンクを使用してオファーがキャンペーンに割り当てられている (コンタクト履歴に記録されたデータの有無を問わない)。
- オファー・リストがターゲット・セル・スプレッドシートに割り当てられている (コンタクト履歴に記録されたデータの有無を問わない)。
- メール・リスト・プロセスでオファー・リストが割り当てられているが、このメール・リスト・プロセスが実行されなかった。
- メール・リスト・プロセスでオファー・リストが割り当てられており、「コンタクト履歴に記録」がオフの状態でのこのメール・リスト・プロセスが実行された (コンタクト履歴に記録されたデータはなし)。

以下のケースでは、オファーまたはオファー・リストはアクティブと見なされません。

- オファーがオファー・リストで使用されている (コンタクト履歴に記録されたデータはなし)。
- オファーがターゲット・セル・スプレッドシートに割り当てられている (コンタクト履歴に記録されたデータはなし)。
- メール・リスト・プロセスでオファーが割り当てられているが、このメール・リスト・プロセスが実行されなかった (コンタクト履歴に記録されたデータはなし)。
- メール・リスト・プロセスでオファーが割り当てられており、「コンタクト履歴に記録」がオフの状態でのこのプロセスが実行された (コンタクト履歴に記録されたデータはなし)。
- 「オファーの追加/削除」リンクを使用してオファー・リストがキャンペーンに割り当てられている。

重要: アクティブなオファーまたはオファー・リストを削除しようとする、オファーまたはオファー・リストが削除ではなく回収されることを示す確認メッセージが表示されます。システム・テーブルで参照されているオファーまたはオファー・リストが今後使用されないようにするには、それらを削除するのではなく、回収する必要があります。

オーディエンス・プロセスでのデータ・フィルタリングのサポート

キャンペーン・フローチャートにおける最上位の選択プロセスと抽出プロセスでデータ・フィルタリングがサポートされることに加えて、最上位のオーディエンス・プロセスにも同じ機能が追加されました。これは、前のリリースの IBM Campaign には備えられていませんでした。

注: データ・フィルターは、未加工の SQL 照会にも、未加工の SQL を使用するカスタム・マクロにも、値のプロファイル実行時にも適用されません。

新しいブラウザのサポート

バージョン 9.1 では、Safari (Macintosh) と Internet Explorer 10 (Windows) のサポートが追加されています。詳しくは、IBM Enterprise Marketing Management バージョン 9.1.0 の「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」を参照してください。

「コンタクト履歴ログ・オプション」ダイアログへの「クリア」ボタンの追加

コール・リスト・プロセスまたはメール・リスト・プロセスを構成する際に使用できる「コンタクト履歴ログ・オプション」ダイアログに、「クリア」ボタンが追加されました。「クリア」ボタンを使用すると、「コンタクト日付 (未入力の場合はフローチャート実行日)」フィールドをデフォルト値 (未入力) に戻すことができます。コンタクト日付を選択したものの、後でフローチャート実行日の方を使用することにした場合は、「クリア」ボタンを使用してください。

「OK」ボタンおよび「適用」ボタンの動作

Campaign でダイアログ・ボックスが開いており、ユーザーが何も変更を加えない場合は、「OK」ボタンと「適用」ボタンはアクティブになりません。これらのボタンは、変更が加えられた場合にのみアクティブになります。以前は、変更が加えられていない場合でも、これらのボタンはアクティブでした。変更を加えずにダイアログを閉じる場合は、「キャンセル」ボタンを使用するか、または「X」をクリックしてダイアログを閉じます。

フローチャート内の接続線

フローチャート内で別のプロセス・ボックスにつながる接続線は、そのプロセス・ボックスの上部に表示されることで、各プロセスがどのように接続されているかを明示します。これは、9.x より前のバージョンにおける接続線の表示形式からの変更です。フローチャートの設計者は、接続線が交差しないようにフローチャート内のプロセスを位置変更することができます。

IBM Campaign v9.0.0 の新機能と変更点

IBM Campaign バージョン 9.0.0 には、次の新機能と変更点が含まれます。

ブランディング

Unica® の名前は使用されなくなりました。例えば、IBM Unica Campaign は名前変更されて、IBM Campaign となります。

IBM Coremetrics は名前変更されて、Digital Analytics となります。

ユーティリティー

ActiveX クリーンアップ・ユーティリティー (uacflchk) は、必要なくなったため、提供されなくなりました。

IBM EMM 製品のアラートと構成を登録する、新しい IBM Marketing Platform ユーティリティーの alertConfigTool があります。詳しくは、「IBM Campaign イン

ストール・ガイド」を参照してください。

構成

ODBC データ・ソースの新しい構成プロパティ (設定 | 構成 | Campaign | Partitions | partition[n] | dataSources | DefaultTextType) があります。このプロパティは、ソース・テキスト・フィールドが異なるデータ・ソース・タイプからのものである場合、IBM Campaign に、宛先データ・ソースにテキスト・フィールドを作成する方法を指示します。詳しくは、「IBM Campaign 管理者ガイド」を参照してください。 (TT DOC00628)

新しい構成プロパティが追加されました (Affinium | Campaign | partitions | partition[n] | server | flowchartConfig | legacyMultifieldAudience)。ほとんどの場合、このプロパティは、デフォルト値の FALSE に設定したままにしておくことができます。Campaign v8.5.0.4 以降は、複数フィールドのオーディエンス ID フィールドに、フィールドのソースとは関係なくオーディエンス定義に応じた名前を付けます。プロセスが複数フィールドのオーディエンス ID フィールドを使用するように構成するとき、複数フィールド・オーディエンス用の新しいオーディエンス ID 命名規則が示されるようになります。以前の Campaign バージョンで作成されたフローチャート内の構成済みプロセスは、機能し続けるはずですが、命名規則が変更されたために古いフローチャートが失敗する場合があります。legacyMultifieldAudience=TRUE を設定して、Campaign の動作を元に戻すことができます。 (RTC 5219 DEF063741)

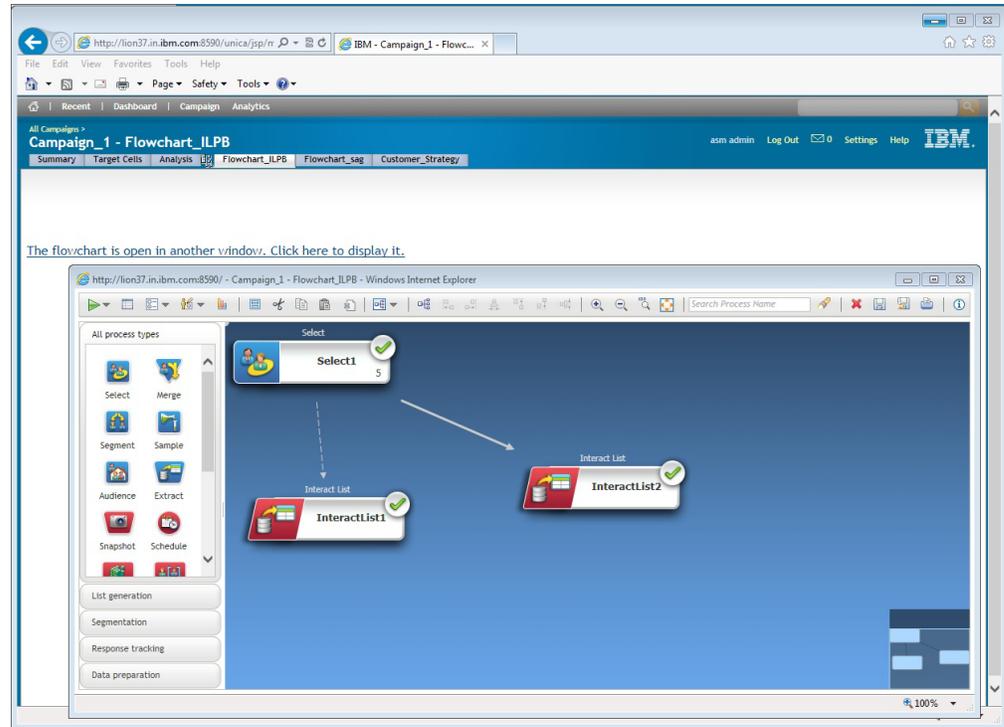
「Campaign | サーバー | fullContextPath」プロパティは、Campaign フローチャートがアプリケーション・サーバーのリスナー・プロキシと通信するために使用する URL の指定に使用されるようになりました。このプロパティはデフォルトでは定義されていないので、システムが動的に URL を決定します。Marketing Platform が IBM Tivoli® Web アクセス制御プラットフォームと統合されるとき、Tivoliでこのプロパティを Campaign URL に設定する必要があります。

フローチャート

バージョン 9.0 以降、フローチャート・ワークスペースは、外観を変更しユーザビリティを改善するために再設計されました。フレームワークは、Active-X ではなく、Dojo コンポーネントの Dojo Diagrammer に基づくものとなりました。Internet Explorer のみでサポートされている ActiveX を使用するには、フローチャートを扱うために、クライアントにプラグイン制御をダウンロードする必要があります。多くのお客様がプラグインのダウンロードを望まないため、また、ActiveX が Internet Explorer の今後のバージョンでサポートされなくなるため、フローチャート・ワークスペースを使用できるように、Dojo コンポーネントが導入されました。

再設計には、フローチャートとレポート・コンポーネント (ツールバー、ダイアログ・ボックス、進捗状況インジケータ、関連したコントロールなど) の外観の変更が含まれます。全体的な機能は同じです。

フローチャート・ウィンドウは、以下の例のようになります。



以下のリストは、変更の要約を示しています。

- **別個のプロフローチャート・ウィンドウ。** フローチャートを作成または編集するとき、別個のプロフローチャート・ウィンドウが開きます。新しいプロフローチャート・ウィンドウの以下の機能をご確認ください。
 - メインの Campaign ウィンドウのプロフローチャート・タブをクリックすると、そのメイン・ウィンドウには「プロフローチャートは他のウィンドウで開かれています。ここをクリックして表示してください。(The flowchart is open in another window. Click here to display it.)」というリンクがあります。プロフローチャート・ウィンドウがすでに開いているときにこのリンクをクリックすると、プロフローチャート・ウィンドウがアクティブになります。プロフローチャート・ウィンドウを閉じてからこのリンクをクリックすると、プロフローチャートが表示モードで再度開きます。
 - ポップアップ・ブロッカーは、プロフローチャート・ウィンドウが開くことを抑止します。ご使用のブラウザまたはブラウザ・アドオンでポップアップ・ブロッカーをオフにするか、Campaign サーバーについて特定の例外を設定する必要があります。
 - プロフローチャート・ウィンドウは、移動したり、画面のサイズまでサイズ変更したりできます。また、プロフローチャート・ウィンドウが開いているときにメインの Campaign ウィンドウで作業することもできます。
 - プロフローチャート・ウィンドウは、一度に 1 つしか開けません。すでにプロフローチャートが開いているときに別のプロフローチャートを開いたり編集したりすると、開いているウィンドウの現行プロフローチャートは新しいプロフローチャートに置き換えられます。現行プロフローチャートの変更内容を保存していない場合は、新しいプロフローチャートが開く前に、変更内容を保存するようプロンプトが出されます。

- **新しいツールバー・アイコン。** ツールバーには、更新されたアイコンのほか、フローチャートとその表示用に追加されたコントロールを提供する数多くの新規オプションも含まれています。
- **プロセス・ボックスの更新。** パレット上のプロセス・ボックスのアイコンが更新され、見やすく選択しやすくなりました。

プロセス・ボックスの接続は、ActiveX コントロールのようにプロセス・ボックスの中央に限定されておらず、プロセス・ボックス上に表示されている 4 つの接続ポイント (左、右、上部、下部) のいずれかから線を描画します。

注: 以前のリリースとは異なり、新しい外観を使用するすべてのプロセス・ボックスとダイアログがサイズ変更可能なわけではありません。この点については、Campaign フィックスパック 9.1.0.2 で対応されています。

- **ドラッグ・アンド・ドロップ。** True Drag and Drop がサポートされているので、ワークスペースをクリックする代わりに、プロセス・ボックスをパレットからワークスペースへドラッグできます。
- **新しいフローチャートの表示ツールと編集ツール。** フローチャート・ウィンドウでは、ActiveX コントロールのグリッド・ベースのレイアウトを使用しなくなりました。その代わりに、プロセス・ボックスを自由に移動したり、フローチャートの任意の場所に配置したりできます。そのため、フローチャートが編集用または表示用に開かれているとき、フローチャートの外観を調整するために、次のような新しいツールが使用可能となっています。
 - ツールバー上の位置合わせ用オプション「左揃え」、「右揃え」、「上揃え」、「下揃え」、「中央揃え (上下)」、「中央揃え (左右)」を使用して、選択した複数のプロセス・ボックスを位置合わせします。位置合わせ用オプションが提供されるので、グレイ・ドットのグリッドは使用されなくなりました。
 - ツールバー上のレイアウト変更用オプション「ツリー」、「組織図」、「円形」、「階層」を使用して、事前定義されたレイアウトをフローチャートに適用します。
 - ツールバー上の「ズームイン」、「ズームアウト」、「ズームのリセット」を使用して、フローチャートの部分の表示を整えます。キーボードの Ctrl キーを押しながらマウスのスクロール・ホイールを使用して、ズームインとズームアウトを行うこともできます。
 - ツールバー上の「内容に合わせて調整」を使用して、ワークスペースに収まるようにフローチャートをサイズ変更します。その後、必要であれば、ズーム用のオプションまたはパン操作ボックスを使用して、表示をさらに調整します。
 - ツールバー上の「検索」を使用して、フローチャートで名前によってプロセス・ボックスを見つけます。検索ツールでは大/小文字の区別はありません。検索結果が出た場合、一致するプロセス・ボックスがフローチャート・ウィンドウの中央に配置され、強調表示されます。「検索」アイコンをもう一度クリックすると、次の一致に進みます。
 - ツールバー上の「すべて選択」を使用して、フローチャート内のすべてのプロセス・ボックスを選択します。

- フローチャート・ウィンドウの右下の隅にあるパン操作ボックスを使用して、確認する領域を強調表示します。パン操作は、多くのプロセス・ボックスがあるフローチャートで特に役立ちます。
- **実行中のフローチャート。**新しいフローチャート・ウィンドウには、プロセス・ボックスの実行状態を示す新しいアイコンがあります。特に注目すべきは、アニメーション表示のアイコンによってフローチャートが実行中であることを示すアイコンと、ActiveX コントロールでは使用できなかった状況アイコンによってフローチャートが休止していることを示すアイコンです。
- **ダイアログ・ボックスの機能拡張。**フローチャート内の、特にプロセス・ボックスを構成するためのダイアログ・ボックスが、このリリースで改善されました。変更内容の一部として、以下の変更があります。
 - いくつかのダイアログで、リストの動作が変更されました。例えば、「**Ctrl + クリック**」を使用して、複数のアイテムを選択できます。展開可能なリストは、正符号 (+) ではなく、そのリストの横にある小さな矢印によって示されるようになりました。
 - プロセス・ダイアログ・ボックスの外観が更新され、以前のリリースと同様のレイアウトと機能を保ちながら、使いやすくなりました。
 - プロセス・ボックス・ダイアログでグリッド内のセル値を変更する場合に、別個の編集フィールドを使用する必要がなくなりました。セルを編集する場合はダブルクリックします。
- **新しいエクスポート・オプション。**プロセス内のフィールドをプロファイル作成した後に、プロファイル・データをエクスポートする方法が変更されました。以前は、データが XLS にエクスポートされ、ファイル名は「Campaign.xls」にハードコーディングされていました。データが CSV (コンマ区切り値) 形式にエクスポートされるようになりました。「**ファイル名**」フィールドを使用して、ファイル名を割り当てます。デフォルトの名前は、ダイアログ・ボックス・タイトルの「**レポート・データのエクスポート**」です。

新規の機能と変更された機能について詳しくは、「*IBM Campaign ユーザー・ガイド*」で以下のトピックを参照してください。

- フローチャート・ワークスペースの概要
- プロセス・ボックスに関する作業
- フローチャートの外観の変更

フローチャートが編集用に開かれているときにヘルプを利用するためには、フローチャート・ウィンドウ・ツールバーのヘルプ・アイコン  をクリックします。

レポート

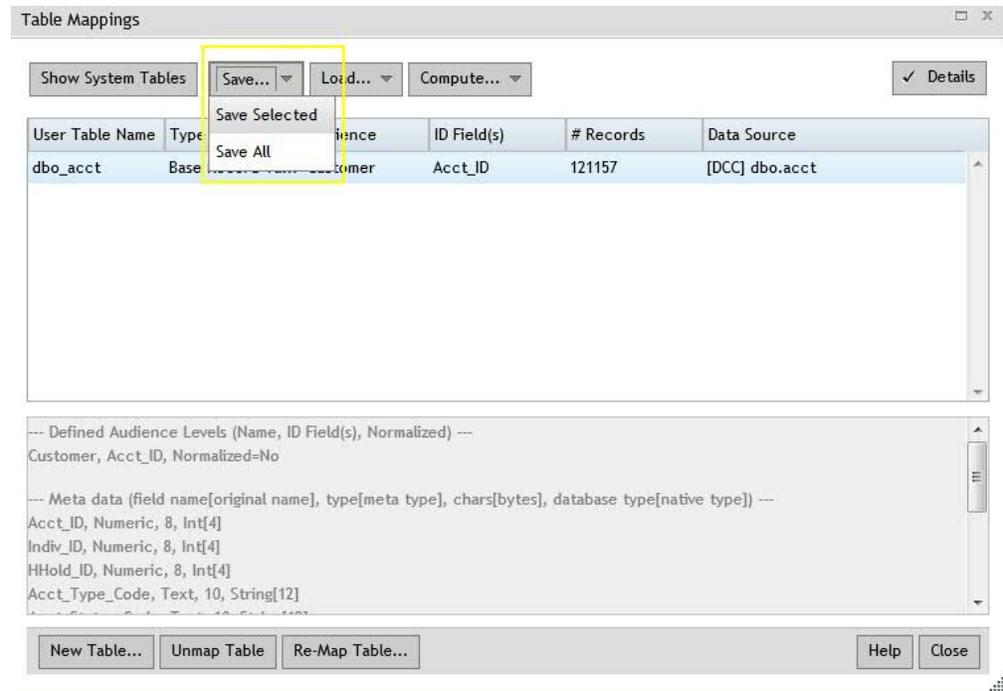
いくつかの変更がレポートの外観に対して行われました。例えば、セル・レポートの上部にある凡例がより読みやすいものに改善されました。

セル・ウォーターフォール・レポートでは、選択したセルが複数の下流プロセスに接続されている場合、分析するフローチャート内のパスを指定できるようになりました。レポート・ツールバーの「**パス**」リストを使用して、分析するパスを選択します。

レポートのインストール、アップグレード、および構成に関する情報が、IBM Campaign の文書には含まれなくなりました。これらの情報は新しいガイド、「IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド」に統合されています。

テーブル・マッピング

ActiveX コントロールを Dojo ベースのユーザー・インターフェースに置き換えたことによって、「テーブル・マッピング」ダイアログが更新され、機能強化されました。必須機能は変わりませんが、「保存」および「ロード」マッピング・コントロールは、以下の例のようにドロップダウン・リストに変更されました。



その他の変更

ロシア語がサポートされるようになりました。ロケール設定の設定方法について詳しくは、「IBM Marketing Platform 管理者用ガイド」を参照してください。

第 3 章 IBM Campaign の修復された問題

以下の表では、Campaign 9.1.0 で修正された問題を、問題番号順にソートしてリストします。

表 1. Campaign の修正された問題

問題	ID	説明
ユーザーが水平モードから垂直モードに切り替えるとき、プロセス・ボックス間の接続がオーバーラップすることがある	2980	ユーザーが水平表示モードと垂直表示モードとの間で切り替えるとき、接続の線とプロセスがオーバーラップすることがあります。
DOJO のキャッシュに入れる場合、プロセス・ボックス情報が完全にロードされるまでは、不正確な情報が表示される	6141	プロセス・ボックスが完全にロードされるまでは、直前の情報や直前のプロセス・ボックスに関連した情報が背景に表示されます。すべてのデータのロードが完了すると、画面が更新されて、最新のデータが表示されます。
データが存在しない場所では、グリッド枠が表示されない。	6692	いくつかの特定のプロセス・ボックスでは、グリッド列にデータがない場合、グリッド内のセルの周囲にある枠が表示されません。
コンタクト日付が 2050 年の場合、最適化プロセス・ボックスにはエラー 10404 (「サーバー・プロセスと通信できません。サーバー・プロセスが終了している可能性があります (unable to communicate with server process; server process might have exited)」) が表示される。	6910	コンタクト日付を 2037 年より後にすることはできません。
レポート・ウィンドウで完全な 3D グラフがユーザーに表示されない	8036	レポート・ウィンドウでの最大値制限のために、1 つのウィンドウにスクロールなしで 3D レポートの全体を表示することはできません。
複数のプロセス・ボックスがフローチャート・ウィンドウでオーバーラップする	8603	いくつかの特定のシナリオで、複数のプロセスが相互にオーバーラップすることがあります。
削除されたフローチャート・タブが引き続き表示されることがある	8955	特定の条件下では、キャンペーンやセッションに再度アクセスするときまで、削除されたフローチャート・タブが表示されています。
メール・リストの「処理」タブで、コントロール・セルのオファー列とコントロール・セル列が無効な列として表示されない。	9163	「メール・リスト」プロセスや「コール・リスト」プロセスの処理タブでは、コントロール・セルや関連オファーに関連付けられた列がぼかし表示されません。コントロール・セルのためのオファーを追加できないので、それらの列は無効にする必要があります。

表 1. Campaign の修正された問題 (続き)

問題	ID	説明
アップグレードによって、Marketing Platform の setenv.bat に正しい情報が組み込まれない	9359	<p>Campaign アップグレード・スクリプトを実行するとき、「setenv.bat」内に Platform ホーム・ディレクトリーを示すポインタが含まれています。UNICA_PLATFORM_HOME は、acUpgradeTool を実行するように設定されている必要があります。そのように設定されていない場合、ツールの実行中に、パスを指定するように求めるプロンプトがユーザーに出されます。</p> <p>Marketing Platform が Campaign とは異なるマシンにインストールされている場合、アップグレード・ツールは Platform ホームのパスにアクセスできません。続行するには、ユーザーはアクセス可能な別の Platform ホームのパスを入力する必要があります。これには任意のディレクトリー内のパスを使用できます。</p>
「メール・リスト」プロセス・ボックスの「処理」タブで「OK」をクリックすると、JS エラーが表示される	11416	このシチュエーションでエラーが発生することはなくなりました。
disallowAdditionalValForOfferParam が設定されている場合でも、ユーザーが「パラメーター」タブの値ドロップダウンでストリングを手動で入力することによりテーブル・フィールドを指定できる。	33832	構成プロパティ disallowAdditionalValForOfferParam が True の場合は、どのオファー属性についても、メール・リスト・プロセスの「パラメーター」タブにおけるすべてのパラメーターの値ドロップダウンで、ユーザーがテーブル値/UCGF/ユーザー定義フィールドを選択できないようになっている必要があります。
フローチャートの名前変更/移動が行われ、そのフローチャートのスケジュール 1 つが完了済みの場合に、スケジュールが失敗する	062623 TT	フローチャートの名前変更または移動が行われ、そのフローチャートのスケジュールの 1 つが完了済みの場合に、フローチャート・スケジュールがエラー 701 で失敗します。
「サンプル」プロセス・ボックスの「OK」ボタンを押すと、「10490 Web アプリケーションから受け取った JSON データのデータ・タイプが一致していません」というエラーになる。	72644	「サンプル」プロセス・ボックスでサンプルまたはセグメントの数を指定した後に「OK」をクリックするか、または別のタブを選択すると、「10490 Web アプリケーションから受け取った JSON データのデータ・タイプが一致していません」というエラー・メッセージが表示されます。これを回避するには、「OK」を再度クリックするか、または選択したタブをもう 1 回選択します。

第 4 章 IBM Campaign の既知の問題

以下の表では、Campaign 9.1.0 の既知の問題を、問題番号順にソートしてリストします。

表 2. Campaign の既知の問題

問題	ID	説明
フローチャートの実行時に、エラー「31606: 履歴テーブルが変更されました (31606:History table are changed)」が出されて「メール・リスト」プロセス・ボックスの構成が解除される。	該当なし	1. フローチャートの作成とメール・リスト・プロセスの追加の前に履歴テーブルがマップされる場合は、問題がありません。 2. ステップ 1 に従わない場合でも、エラーが表示された後に履歴テーブルをマップできます。フローチャートを編集し、プロセス・ボックスを構成すれば、プロセスは実行されます。
UNIX のコンソール・モードでインストーラーを実行している際のメッセージ	該当なし	UNIX コンソール・モードでインストーラーを実行している際、インストーラーの .bin ファイルが見つからなかったことを示す通知メッセージが表示されます。このメッセージは無視して構いません。
非 ASCII データのマイグレーション後に、フローチャートを開くことができない	該当なし	非 ASCII データを Campaign 8.6 にマイグレーションした後、ターゲット・システムで Campaign フローチャートを開くことができない場合があります。セッション・フローチャートは正常に開きます。この問題を回避するには、上書きモードでキャンペーンを再度マイグレーションします。これで、フローチャートを開くことができます。
大半のウィンドウでホット・キーが実装されていない	2968	Dojo 実装では、キーボード・ショートカットを使用して一部の機能をアクティブにすることができません。ユーザーはその代わりにボタンをクリックしなければなりません。
「選択」プロセス・ボックス内でノードの位置が入れ替わる。	7275	選択プロセスでユーザー定義フィールドを選択してから「ユーザー定義フィールド」ダイアログを閉じると、「選択可能なフィールド」のリストで「ユーザー変数」項目と「ユーザー定義フィールド」項目の位置が変更されます。
まだ実行していないセルについて不正確なレポートが表示される。	7844	まだ実行していないセルについて、直前のセルのレポートが表示されます。
フローチャート・データの収集機能を実行するとき、サーバーが異常終了することがある。	8019	「フローチャート・データの収集」機能の日付フィールドにテキスト値が入力された場合、サーバー・プロセスが異常終了することがあります。
「ファイルにエクスポート (Export to File)」にチェック・マークが付いていないとき、メール・リストの「サマリー・ファイル」オプションが無効になっていないなければならない。	13460	「メール・リスト」プロセス・ボックスの「実現」タブで「ファイルにエクスポート (Export to File)」オプションがチェックされていないとき、「サマリー・ファイル」オプションが有効になります。しかし、これは有効になるべきではありません。

表 2. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	ID	説明
CH テーブルのフィールド名が変更された際に、UI から DCH をマップする手段が必要。	13502	UA_ContactHistory テーブルの列名を変更した後に、UA_DtlContactHistory テーブルをマップする手段がなければなりません。UA_DtlContactHistory をマップするには、(ソース・テーブル・フィールドと必須フィールドが一致するように) ソース・テーブルの列名を適宜変更してから、テーブルをマップします。
アクティブなオファーの削除中に、リストで使用されているオファーに関する警告メッセージが 2 回表示される。	36267	「警告: "オファー Offer1" オファーは 1 つまたは複数のオファー・リストで使用されています。このオファーを削除すると、これらのオファー・リストからも自動的に削除されます。続行しますか?」というメッセージが 2 回表示されます。
オファー UI に小数点以下 3 桁で通貨を表示する際の問題。	57901	パラメーター化された属性を含むテンプレートに、小数点以下が 3 桁表示されています。オファーを保存した後、小数点以下が 2 桁しか表示されません。
関連付けられた製品に関する情報が、Marketing Operations でオファーに表示されない	TT DEF062333	関連付けられた製品を伴う Campaign で作成されたオファーが、Marketing Operations でインポートされる際に、関連付けられた製品に関する情報が Marketing Operations で表示されません。
最初にマップされなかった場合、Digital Analytics 変換テーブルはセグメント・プロセス・ボックスで使用できない。	TT DEF063392	変換テーブルが最初にマップされなかった場合に、変換テーブルまたは他のユーザー・テーブルをセグメント・プロセス・ボックスで使用できません。
非常に古い日付を含むオファー・テンプレートにおける、Oracle による日付処理。	65446	非常に古い日付 (214 など) が含まれるオファー・テンプレートを保存できません。指定された値が無効な日時データ型のインスタンスであることを示す例外が発生します。
メール・リストで、カスタム属性に定義した小数点以下の桁数が無視される。	66057	メール・リストでオファー・カスタム属性を使用して、カスタム属性定義に指定した小数点以下の桁数が無視されます。
選択プロセス・ボックスが、ディメンション・テーブルに基づいて作成されたカスタム・マクロを使用して構成されている場合に、エラー 11528 で失敗する。	71062	ディメンション・テーブルに基づくカスタム・マクロで、選択プロセスでのエラー 11528 などといったプロセス・エラーが生じることがあります。原因は、カスタム・マクロのベース・テーブル名が、ディメンション・テーブル名とともに、選択されたフィールド名の前に付加されるためです。
メール・リスト・プロセスの「処理」タブで、オファーが最初にターゲット・セルに割り当てられる場合に、コントロール・セルをターゲット・セルに割り当てるのが難しくなる。	71065	コントロール・セルのグリッド・セルをクリックしてターゲット・セルを割り当てる際に、ターゲット・セル選択項目が小さな細線になるため、選択しづらくなります。これは、コントロール・セルを、ダイアログ上部にあるターゲット・セルに割り当てる場合に限り発生します。ダイアログを再度クリックすると、ドロップダウン・リストが表示されます。
「前のページに戻る」をクリックすると、UI が崩れる場合がある。	75262	IBM EMM 製品でのナビゲートには製品内のリンクを使用するようにし、ブラウザーのコントロールは使用しないでください。

表 2. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	ID	説明
8.5+ から 9.1 へのアップグレードで、不要な <code>¥jre</code> が <code>setenv.sh</code> の <code>PLATFORM_CLASSPATH</code> に追加される。	80929	<code>PLATFORM_CLASSPATH</code> 変数はアップグレードで使用されなくなったため、アップグレードに影響はありません。
「SPSS モデル」プロセス・ボックスが、エラー 18009 で失敗する。	81309	この問題は、レコードが 20 個未満のモデルに限り発生します。
Campaign アップグレード・ログで、Optimize に関連したエラーがログ・ファイル内に表示される。	90944	アップグレード時に次の警告が表示された場合、これらは無害なため無視することができます。: 警告 (WARN) <code>upgradeTool.AC80UpgradeTask [1014]</code> - パラメーターが見つかりません (Unable to find param): Affinium Campaign partitions partition1 Optimize DisplayFormat 警告 (WARN) <code>upgradeTool.AC80UpgradeTask [1028]</code> - パラメーターが見つかりません (Unable to find param): Affinium Campaign partitions partition1 Optimize AlgorithmTuning ConflictPredictionPercentage
「抽出」プロセス・ボックスに変更を加えていない場合でも、「プロセスの実行結果が失われます。続行しますか?」というメッセージが表示される。	90956	「抽出プロセス構成」ダイアログを開き、何も変更を加えずに「OK」をクリックすると、このメッセージが表示されます。変更を加えていない場合、このメッセージは表示されるべきではありません。
Campaign および Interact のアップグレード・スクリプト。	90970	アップグレード・スクリプトの実行時に、不要なクラス名「 <code>com.ibm.net.SocketKeepAliveParameters</code> 」が表示されます。機能性に影響はありません。これらのメッセージは、無視して構いません。
ETL ログで、実際のテーブル名が使用されない。	93872	マップされていないテーブルにより、ETL が失敗し、例外が ETL ログ・ファイルに書き込まれます。ログ内のテーブル名に、オーディエンス ID が付加されます。
モデル・タイプを予測から関連付けに変更すると、エラーになる。	93877	これは、「データ」タブをクリックした場合にも発生します。データは自動的に走査されるため、SPSS モデル・プロセスの実行時に正しくない結果になります。
オファー名から非 ASCII 文字が切り捨てられる。	93906	これは単なる表示上の問題です。オファー・ページで「 IBM eMessage デジタル資産へのリンク 」をクリックして、関連付けられた資産を表示すると、オファー名から非 ASCII 文字が切り捨てられます。
Campaign のアップグレード・スクリプトの実行が、drop ステートメントに関連したエラーが出されて完了する。	102958	アップグレード中に、「SQL のアップグレードをすべて正常に実行することはできません。詳細については、ログ・ファイルを確認してください。(Unable to execute all SQL updates successfully, please check the log file for details.)」というメッセージが表示されます。これは、次の drop ステートメントに関連したものですが、アップグレード・スクリプトの実行に影響はありません: <code>DROP TABLE UA_OfferSuppression DROP TABLE UA_RespTypeMapping</code> 。

表 2. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	ID	説明
フローチャートの追加時に JS エラーとなる。	106625	これが発生するのは、Interact がインストールされており、かつ、Internet Explorer 9 および 10 の「インターネット オプション」における「詳細設定」タブの「ブラウズ」セクションでオプション「スクリプト エラーごとに通知を表示する」が有効に設定されている場合のみです。デフォルトでは、このオプションは有効になっていません。
「抽出」プロセス・ボックスの「抽出」タブから開始された「ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウに、マップされたテーブル/ファイル・ノードが表示されない。	106626	回避策: 抽出プロセスの「ソース」タブからユーザー定義フィールドを作成すると、「抽出」タブで使用可能になります。

第 5 章 IBM Campaign 9.1.0 の既知の制限

Campaign 9.1.0 での既知の制約を以下の表にリストします。

表 3. Campaign の既知の制限

問題	ID	説明
ダイアログの動作	該当なし	フィールドをアクティブにしたり、フィールド値を変更したりするために 2 回クリックする必要がある場合があります。
不使用の構成プロパティ: monitorEnabledForEmessage	該当なし	次の構成プロパティは現在使用されていません。Campaign monitoring monitorEnabledForEmessage。
関連製品に関する制限	該当なし	IBM Marketing Operations からオファー管理を行う際は、製品 ID をオファーに関連付ける「関連製品」機能を使用できません。
メール・リスト・プロセスでのユーザー定義フィールドからの結果が空であるか、または正しくない。これが発生するのは、値が変わる生成フィールド (UCGF) を呼び出すユーザー定義フィールドが使用されるプロセス・ボックスに限られます。	該当なし	メール・リストのユーザー定義フィールドでは、UCGF が定数でない場合に UCGF を使用しないでください。また「パラメーター」タブから、オファー属性にデータを設定するために UCGF を呼び出すユーザー定義フィールドを作成しないでください。 詳しくは、次の技術情報を参照してください。 http://g01zciwas018.ahe.pok.ibm.com/support/pcf/preview.wss?host=g01zcidbs003.ahe.pok.ibm.com&db=support/swg/istech.nsf&unid=C4A93DC0ED188D6985257A6B00699C45&taxOC=SSCKNRB&MD=2012/08/31%2015:08:35&sid=
Windows の偽装が機能していない。	該当なし	Active X との使用のために Windows の偽装が実装されていましたが、v9.0 以降で Dojo/Web クライアントに置き換えられました。そのため、Windows の偽装のサポートは不要になりました。
Campaign 生成フィールド (UCGF) をプロファイルしても、正しい結果が生成されない。	該当なし	一部の UCGF の値は、セルまたは処理されるオファーに依存します。セル関連の UCGF の場合、プロファイル中は最初のセルに関連付けられた値だけが表示されます。
ターゲット・セル・スプレッドシートを開いたときに、カスタム・セル属性のデフォルト値が表示されない。	該当なし	デフォルト値は、最初表示されませんが、使用されます。TCS で、カスタム・セル属性をクリックするか開いて編集すると、表示したり変更したりすることができます。
制限された文字列を UA_UsrResponseType.Name フィールドに格納できない。	該当なし	UA_UsrResponseType.Name フィールドに、左括弧とそれに続く単一引用符とを含めることができません。

表 3. Campaign の既知の制限 (続き)

問題	ID	説明
複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップする場合、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用する。	該当なし	<p>Campaign 内の複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップし、それらのデータ・ソースのうちの 2 つ以上に同じ TempTablePrefix を使用すると、孤立した一時テーブルを削除するためにクリーンアップ・ユーティリティを使用したときに、実際には別の Campaign データ・ソースから定義された適正な一時テーブルであるのに、孤立した一時テーブルであるように間違えて識別してしまう場合があります。</p> <p>削除された一時テーブルがあっても、関係するフローチャートを再実行するとその一時テーブルは自動的に再作成されますが、ベスト・プラクティスとして、複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマッピングする場合は、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用してください。</p> <p>Campaign で定義されるデータ・ソースがデータベース内の別のスキーマにマップされる場合、もう 1 つの解決策は、クリーンアップ・ユーティリティを実行するデータベース・ユーザーが、同じデータベースの別のスキーマのテーブルをドロップする権限を持たないようにすることです。</p>
WebLogic 11g と AIX® 6.1 以上	該当なし	<p>WebLogic 11g と AIX 6.1 以上を組み合わせる場合、WebLogic のクラス・ロードの問題に対処するには手動の回避策を実行することが必要です。この回避策は、Campaign.war ファイルから xercesImpl.jar ファイルを削除して、配置する前に再パッケージすることです。詳細は「Campaign インストール・ガイド」のインストール手順にあります。</p>
不使用の構成プロパティ: ShareConnection	758	<p>次の構成プロパティは使用されなくなりました: Campaign Partitions partition[n] dataSources ShareConnection.</p>
カスタム・マクロのないフォルダーが、「式ヘルパー」ウィンドウの「カスタム・マクロ」ノードの下に表示される	3203	<p>フォルダーが親フォルダーに存在し、それらのフォルダーにカスタム・マクロが含まれない場合でも、Campaign にはフォルダーが表示されます。</p>
「拡張設定」ウィンドウの「選択ルール」ドロップダウンの下にある選択されたユーザー定義フィールドは、編集モードで開くべきである	9055	<p>MORE セクションに追加されたユーザー定義フィールドの詳細を確認するためにボタンをクリックするとき、そのユーザー定義フィールドは編集モードで開くはずですが、「ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウが開いてしまいます。ユーザーは、ドロップダウンからユーザー定義フィールドを選択できます。</p>
ダイアログ・ボックスのサイズを変更できない	11162	<p>Campaign のダイアログ・ボックス (例えば、「プロセスの構成」ダイアログや「テーブル・マッピング」ダイアログ) の最大化やサイズ変更はできません。</p>
エラー 19024: セグメント・フォルダーからセグメントが削除された場合に、そのフォルダーを削除できない。	17202	<p>フォルダーから削除されたセグメントは、そのフォルダー内で非アクティブなセグメントとして残ります。非アクティブなセグメントを含むフォルダーは、削除できません。これは所定の動作です。</p>

表 3. Campaign の既知の制限 (続き)

問題	ID	説明
同じフローチャートが複数のロケールで編集されている場合、好ましくない動作が引き起こされるおそれがあります。	18991	この状態は、言語設定の異なる複数のユーザーが、同じフローチャートを編集する場合にのみ発生します。ロケールの異なる複数のユーザーは、別のロケールのユーザーによって作成された同じフローチャートを編集するべきではありません。そのようにすると、好ましくない動作が引き起こされるおそれがあるためです。推奨されているのは、言語設定が同じユーザーがフローチャートを作成および編集する方法です。
(「新規モデリング・ストリームの作成」により) Campaign の SPSS モデル・プロセスから生成されたストリームから SPSS MA で SPSS モデルを構築できない。	50742	「SPSS モデル」プロセス・ボックスが実行される前は、SPSS モデリング・ストリームに定義されたデータ・ソースは、4 つのレコードのみのダミー・ファイルに基づいたものであり、対話式にモデリングするために使用することはできません (SPSS GUI の「モデル」タブから)。ユーザーは、データ・ソースおよびモデルを手動で変更するか、またはモデル・プロセスを実行して実データを引き出し、構成されたデータ・ソースにデータを追加し、その後にモデリング・ストリームで手動によりモデリングを開始することができます。
TCS でのコピー・アンド・ペースト動作	64710	コピー・アンド・ペーストを使用してデータをターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) にコピーすることはできません。例えば、Excel スプレッドシートから行をコピーして、TCS に貼り付けることはできません。これは、セキュリティ上の理由によるブラウザの制限です。代わりに、「 ターゲット・セルのインポート 」を使用して、コンマ区切り値 (.csv) ファイルからデータをインポートしてください。 TCS からデータをコピーするには、「 ターゲット・セルのエクスポート 」を使用してください。
セグメント・プロセスまたはサンプル・プロセスで、セルをリンクし、「ターゲット・セルへのリンク」を再オープンした後に、リンクされたセルが強調表示されない。	65815	セグメント・プロセス構成またはサンプル・プロセス構成のダイアログ・ボックスにおけるリンクされたセルが、「出力セル名」リスト (「全般」タブ上) で強調表示されません。これは、ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) 内のセルにリンクされていることを示すために強調表示される必要があります。
プロセス・ボックスおよび他のダイアログでのコピー・アンド・ペースト動作	84147	セキュリティ上の理由により、一部のブラウザでは、アプリケーションによるクリップボード経由のコピー・アンド・ペーストが許可されません。この影響を受けるのは、コピー・アンド・ペーストを使用する可能性がある、セグメント・プロセス構成の「全般」タブとアプリケーションの他の領域です。
Campaign ユーティリティ	161323	「 IBM Marketing Platform セキュリティ ログイン 」メソッドが「 Windows 統合ログイン 」または「 Web アクセス制御 」に設定されている場合、キャンペーン・ユーティリティにログインしようとする、「ログインに失敗しました。エラー 10553」というエラーが発生する可能性があります。この問題を回避するため、キャンペーン・ユーティリティを使用する前に、ログイン・タイプを「 LDAP 」または「 IBM Marketing Platform 」に変更してください。

表 3. Campaign の既知の制限 (続き)

問題	ID	説明
プロセス・ボックスの接続矢印の方向が変わる	201968、200241	フローチャートで 2 つのプロセス・ボックスを非常に近くに移動させると、接続矢印の向きが変わります。この制限は、矢印のビジュアル表示に影響します。プロセス・データ・フローには影響ありません。これを回避するには、2 つのプロセス・ボックスの距離を離して、矢印が正しい方向を向くようにします。

第 6 章 IBM Campaign Reports Package

Campaign Reports Package は、キャンペーン、オファー、およびセルのパフォーマンスを追跡するために使用できるレポート・スキーマを提供します。Reports Package を使用するには、Campaign が IBM Cognos® と統合されている必要があります。

詳しくは、IBM Marketing Platform に付属の「*IBM EMM Reports* インストールおよび構成ガイド」を参照してください。

IBM Campaign Reports Package には、以下の項目が含まれています。

- インストール時に IBM Marketing Platform に登録されたスキーマ。これらは、製品のレポート・スキーマを表す属性とメトリックを記述したもので、以下のものが含まれています。
 - レポート・スキーマの基礎となる基本スキーマ (カスタム属性なし)
 - Campaign 用に事前構成されたカスタム属性に依存する、大部分の基本スキーマのカスタム・バージョン
 - 新しいスキーマを作成するために使用できるテンプレート
- IBM Cognos BI サーバーに配置される、IBM Cognos のカスタマイズ可能なモデルとレポート
- IBM Cognos モデルとレポートについて説明した参考資料。これらの資料はディレクトリー ReportsPackCampaign¥cognos10¥CampaignDocs にあります。

Campaign レポートは、1 つのデータ・ソース、すなわち Campaign システム・テーブルからデータを取得します。

レポート・スキーマ

以下のレポート・スキーマが用意されています。

- 「キャンペーン・ビュー」では、Campaign システム・テーブルの標準属性ビューを見ることができます (キャンペーン、オファー、セルなど)。
- 「キャンペーン・カスタム属性」は、キャンペーン、オファー、およびセルのカスタム属性に関するレポートを作成するためのものです。
- 「キャンペーン・パフォーマンス」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、キャンペーン・レベルで開始されるパフォーマンス測定を表示するレポートで使用します。
- 「オファー・パフォーマンス」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、オファー・レベルで開始されるパフォーマンス測定を表示するレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細」は、レスポンス・タイプに基づく、キャンペーンとオファーのレスポンスを示すレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳」は、コンタクト・ステータスに基づく、キャンペーンとオファーのコンタクトの測定に使用します。

カスタム・スキーマでは、上記にリストされたスキーマの最後の 5 つを拡張して、デフォルト、事前構成済みのレスポンス・タイプ、カスタム属性などを組み込みます。

テンプレート

追加のオーディエンス・レベルがある場合は、それらのために、以下のテンプレートを使用して追加のレポート・スキーマを作成することができます。

- キャンペーン・ビュー
- キャンペーン・カスタム属性
- キャンペーン・パフォーマンス
- オファー・パフォーマンス
- キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細
- キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳

レポート

Reports Package には Cognos サンプル・レポートが入っており、それらのレポートには、キャンペーンまたはオファーの「分析」メニューまたは「分析」タブからアクセスできます。またレポートは、ダッシュボード上のポートレットに表示することも可能です。

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポートは、キャンペーンの「分析」タブから取得できます。

- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー・パフォーマンス
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)

以下に示すオファーのサンプル・レポートは、オファーの「分析」タブから取得できます。

- 「What If」オファー収支サマリー
- 日単位のオファー・パフォーマンス
- キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー

以下に示す、オブジェクト間で共通のサンプル・レポートには、Campaign の複数のオブジェクトに関する情報が含まれています。これらのレポートは、Campaign 分析ページから取得できます。

- 「What If」オファー収支サマリー
- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー・パフォーマンス

- キャンペーン・パフォーマンス比較
- キャンペーン・パフォーマンス比較 (収益を含む)
- イニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス比較
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- セルおよびイニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- キャンペーン・サマリー
- オファー・キャンペーンのリスト
- 日単位のオファー・パフォーマンス
- オファー・パフォーマンス比較
- オファー・パフォーマンス・メトリック
- キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポート・ポートレットは、ダッシュボード・ページから取得できます。

- キャンペーン奏功率の比較
- キャンペーン投資収益率の比較
- オファー別のキャンペーン収益比較
- オファー・レスポンスの詳細
- オファー奏功率の比較
- 最終 7 日間のオファー・レスポンス

第 7 章 IBM Campaign の資料のロードマップ

IBM Campaign では、ユーザー、管理者、および開発者向けの資料とヘルプが用意されています。

表 4. 稼働

作業	資料
新機能、既知の問題、および制限に関するリストを参照する	<i>IBM Campaign</i> リリース・ノート
Campaign データベースの構造について学習する	<i>IBM Campaign System Tables and Data Dictionary</i>
Campaign をインストールまたはアップグレードし、Campaign Web アプリケーションを配置する	以下のいずれかのガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>IBM Campaign</i> インストール・ガイド • <i>IBM Campaign</i> アップグレード・ガイド
eMessage を実装する (eMessage を購入した場合)	<ul style="list-style-type: none"> • <i>IBM Campaign</i> インストール・ガイドおよびアップグレード・ガイドでは、ローカル環境で eMessage コンポーネントをインストールして準備する方法について説明しています。 • 「<i>IBM eMessage</i> 起動および管理者ガイド」では、ホスティングされたメッセージング・リソースへの接続方法について説明しています。
Campaign により提供される IBM Cognos レポートを実装する	<i>IBM EMM Reports</i> インストールおよび構成ガイド

表 5. Campaign の構成と使用

作業	資料
<ul style="list-style-type: none"> • 構成およびセキュリティーの設定を調整する • ユーザーのために Campaign を準備する • ユーティリティーを実行し、メンテナンスを実施する • Campaign を Digital Analytics と統合する 	<i>IBM Campaign</i> 管理者ガイド
<ul style="list-style-type: none"> • マーケティング・キャンペーンを作成して配置する • キャンペーンの結果を分析する 	<i>IBM Campaign</i> ユーザー・ガイド
フローチャート・パフォーマンスを改善する	<i>IBM Campaign</i> チューニング・ガイド
Campaign マクロを使用する	<i>IBM EMM IBM</i> のマクロ ユーザー・ガイド

表 6. Campaign と他の製品との統合

作業	資料
eMessage オファー統合を構成する	<i>IBM Campaign</i> 管理者ガイド
Campaign を Digital Analytics と統合して使用する	<i>IBM Campaign</i> 管理者ガイド
Campaign を IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition と統合して使用する	<i>IBM Campaign</i> および <i>IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition</i> 統合ガイド

表 6. Campaign と他の製品との統合 (続き)

作業	資料
Campaign を Marketing Operations と統合して使用する	IBM Marketing Operations および IBM Campaign 統合ガイド

表 7. Campaign 用の開発

作業	資料
API を使用してカスタム・プロシーチャーを開発する	<ul style="list-style-type: none"> IBM Campaign オファァー API 仕様 devkits¥CampaignServicesAPI 内の JavaDoc
Campaign に検証を追加するために、Java™ プラグインまたはコマンド・ライン実行可能ファイルを開発する	<ul style="list-style-type: none"> IBM Campaign 検証 PDK ガイド devkits¥validation 内の JavaDoc

表 8. ヘルプの入手

作業	手順
オンライン・ヘルプを開く	<ol style="list-style-type: none"> コンテキスト・ヘルプ・トピックを開く場合は、「ヘルプ」>「このページのヘルプ」を選択します。 ヘルプ全体を表示する場合は、ヘルプ・ウィンドウ内の「ナビゲーションの表示」アイコンをクリックします。
PDF を入手する	<p>次のいずれかの方法を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Campaign の PDF にアクセスするには、「ヘルプ」>「製品資料」を選択します。 入手可能なすべての資料にアクセスするには、「ヘルプ」>「IBM EMM Suite のすべての資料」を選択します。 IBM EMM インストーラーからは、インストール・プロセス中にすべての資料にアクセスできます。
サポートの利用	<p>http://www.ibm.com/ に移動し、「サポート & ダウンロード」をクリックして IBM サポート・ポータルにアクセスします。</p>

IBM 技術サポートへのお問い合わせ

資料を参照しても解決できない問題が発生した場合は、貴社の指定サポート窓口から IBM 技術サポートにお問い合わせすることができます。問題を効率的に首尾よく確実に解決するには、問い合わせる前に情報を収集してください。

貴社の指定サポート窓口以外の方は、社内の IBM 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質についての簡単な説明
- 問題の発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手できる、製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、技術サポートではお客様の環境に関する情報をお尋ねすることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、ご使用の IBM のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページにアクセスするには、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択してください。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合は、各アプリケーションのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示すると、任意の IBM アプリケーションのバージョン番号を入手することができます。

IBM 技術サポートのお問い合わせ先

IBM 技術サポートへのお問い合わせ方法については、「IBM Product Technical Support」の Web サイト (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントを使用してログインする必要があります。このアカウントは、できるだけ IBM カスタマー番号にリンク済みのアカウントにしてください。お客様の IBM カスタマー番号とアカウントとの関連付けについて詳しくは、サポート・ポータル「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
B1WA LKG1
550 King Street
Littleton, MA 01460-1250
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式

においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置するこ

とを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』
<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/> の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan